

令和元年(2019)度日本地震工学会「論文賞」を受賞しました (2020/4/23)

テーマ：2011年東北地方太平洋沖地震，津波，断層モデル，インバージョン，GNSS
場所：公益社団法人日本地震工学会
URL：<https://www.jaee.gr.jp/jp/general/>

公益社団法人日本地震工学会は，日本地震工学会論文集に地震工学および地震防災に関する論文を発表し，独創的な業績を挙げ，これが地震工学および地震防災における学術・技術の進歩，発展に顕著な貢献をなしたと認められる論文に対して，毎年2件以内を選出し，その著者に対して論文賞を授与しています。

この度，令和元年度日本地震工学会「論文賞」として，応用地質（株）※の根本信氏（地震防災事業部 解析技術部），愛知工業大学工学部教授／内閣府政策参与の横田崇氏，同社高瀬嗣郎氏（地震防災事業部 解析技術部），当研究所の今村文彦所長の共著による，「2011年東北地方太平洋沖震の津波断層モデルの再検討 ―津波関連観測データをフル活用した推定―」と題した論文が受賞しました（2020年4月23日決定）。根本信氏は2019年3月に東北大学工学研究科博士後期課程（社会人・土木工学専攻）を修了し，その際に今村文彦教授（災害リスク研究部門 津波工学研究分野）が主査，寺田賢二郎教授（地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野），越村俊一教授（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）が審査委員を担当しており，博士論文の主要部分が今回の内容でした。

論文は2011年東北地方太平洋沖地震の津波発生メカニズムを実際の観測データ等を元に明瞭に再現したもので，本研究により，隣接領域で今後発生が懸念されている巨大地震を想定するための重要な知見が得られました。特に，沖合津波波形等の既往の研究で広く使用されている観測データにGNSS連続観測データと津波痕跡高を新たに加えることで，地殻変動と津波を説明することのできる信頼度の高い断層モデル（震源過程モデル）を得ることに成功しました。本手法は，津波痕跡高データしか存在しない歴史地震の震源過程推定に応用できる点にも着目され，将来の地震予測にもつながり，防災上の意義も大きいと高く評価されました。

題目：「2011年東北地方太平洋沖震の津波断層モデルの再検討 ―津波関連観測データをフル活用した推定―」

著者：根本信，横田崇，高瀬嗣郎，今村文彦

日本地震工学会論文集，2019年19巻2号，p.2_25-2_41，

DOI：https://doi.org/10.5610/jaee.19.2_25

※2019年11月に「都市直下地震災害（応用地質）寄附研究部門」が設置されました。

<https://irides.tohoku.ac.jp/organization/donation/oyo.html>